



令和5年を振り返って

山野地域づくり協議会長

高田 実



令和5年の山野地域づくり協議会は、発足から4年間の大事な時機をコロナ禍で多大な制約を受けながらも、これまで頑張ってきた旧執行部から新しい執行部が変わった一年でした。

年度はじめに総会で承認いただいた事業やイベントを前体制の思いを受け継ぎつつ、コロナ感染症に配慮しながら、全体として新しい参加しやすい形を模索しながら滞りなく実施できました。一部お盆期間中の台風直撃予報で中止したのもありました。年度事業はまだ残りますが、役員、部会のスタッフと共に知恵を集めて、参加してよかったと思っていただけよう工夫をいたしますので是非たくさんの方々の参加をお待ちします。

さて皆様、ご承知とは思いますが、南砺市の地区公民館、地区社会福祉協議会、地区自治振興会が4年前一斉に統合されました。そして新しい地域づくり協議会が組織され、旧三組織の目的も引き継ぎました。

地域づくり協議会の運営目的は、旧三組織から受け継いだ現在の課題や問題に対処することの他に、次世代、後世により良いふるさとを残すことが最大の目的です。小規模多機能とはそういう意味です。

子供達の笑顔があふれ、子育て世代が安心して生活を営み、高齢者が健康で安寧に暮らせる、そんな地区を目指すために協議会があります。

まだまだ緒にいたばかりですが、そんな山野を目指しながら役員、組織スタッフ一同来年も頑張りますのでよろしくお願いたします。

第2回 山野ふれあい祭り
文化祭 敬老会 10月22日(日)



文化祭・敬老会を終えて

ふれあい祭り実行委員会副委員長
河原 秀樹

好天に恵まれ、たくさんの方々の笑顔や楽しい会話に触れることのできた素敵な一日となりました。

活動発表では、日頃の練習成果を十分に発揮され、会場も熱気に包まれました。展示部門においては、趣深い展示物が多数飾られ、とても見応えがありました。

また、センター前のバザーは、出足もよく、活気にあふれ、賑わいをみせていました。

さらに、午後からの敬老会式典では、今年めでたく米寿を迎えられた方々に、南砺市からのお祝い状が手渡されるなど、微笑ましい時間を共有できました。結びに、大成功と言える「第2回ふれあい祭り」は、山野地域住民の心の絆を、確実に深めたと思います。ご来場の皆様方、本当にありがとうございました。



敬老会の部

山野地域づくり協議会健康福祉部長
川上 久志

令和5年度の敬老会がふれあい祭りの一環として、午後1時から交流センタースポーツ室において行われました。今年、山野地域では18名の方々がめでたく米寿を迎えられました。

米寿の方々

- 板橋 榮(坪野) 藤井 弘一(飛騨屋)
- 澤田 明子(坪野) 藪 アキ子(野能原)
- 西村千代子(坪野) 河原 仁清(安室)
- 柴田 英子(山斐) 田原 幸子(安室)
- 長谷 倫子(山斐) 高田 幹子(高屋)
- 片田 榮信(岩屋) 大浦 秋子(専勝寺)
- 西田 文子(岩屋) 覺知 貞子(専勝寺)
- 前川 明子(岩屋) 覺知百合子(専勝寺)
- 松川 晃夫(岩屋) 村岡 榮二(専勝寺)

式典では、南砺市地域包括医療ケア部 上野真紀福祉課長よりめでたく米寿を迎えられた方々お一人お一人に南砺市からのお祝い状が手渡されました。式典終了後記念撮影を行いました。来年も、元気なお顔が拝見できることを楽しみにしております。





活動発表部門

4年ぶりのふれあい祭り開催となり、活動発表も久しぶりの実施となりました。そのため準備段階で戸惑うこともありましたが、役員、事務局、各団体の多大なるご協力のおかげで、何とかご来場の皆様にご発表を見ていただくことができました。

準備期間の少ないなか、ご出演いただいた団体の皆様、ご来場いただいた皆様、準備片付けなど協力いただいた皆様、本当にありがとうございます。来年はさらに多くの方々にご来場いただき、見ていただきたいと思います。

久々に活動発表ができました

活動発表部門長 大浦 均



展示部門



催し部門

レベルの高い作品展示

展示部門長 藤原 洋

交流センターや地域で活動されている団体、サークルの手芸作品や俳句、防火ポスターなどたくさんレベルの高い作品を展示できました。特別展示企画として、墨絵部会がコロナ禍の3年間で作成された作品を中心に生け花クラブとコラボした会議室展示は艶やかな美術館のようでした。山野地域づくり協議会の活動紹介写真や防災倉庫に保管している防災用具の展示も注目されていました。

今回は展示だけでなく体験等も含め展示方法を工夫し、皆さんに情報発信できればと思います。

ふれあい祭りを終えて

催し部門長 山田 義弘

今回初めてふれあい祭りに関わらせていただいて、それも催し部門ということで何をどのようにすればよいか手探り状態でした。コロナ後の久々の開催ということもあり多くの方々が来場されました。

うどんで腹ごしらえをし、焼鳥や焼きそばをたくさんお買い上げいただき、どれもほぼ完売状態となりました。特に、赤飯やのみ穀カマドで温めたカレーはとても人気で開始後早々売り切れてしまいました。

不慣れなために色々ご迷惑をお掛けしましたが、皆様のご協力のもと大盛況でとてもうれしく思いました。来年以降も続けていく参考に少しでもなればと思います。

8/5



思い出に残った立山登山

田村 翔大

去年、6年生の宿泊学習で立山登山がありました。しかし、天候が悪く一ノ越までしか行くことができず残念な気持ちでした。そこで、一度は頂上まで行ってみたいと思い参加しました。

出発して順調に登っていましたが、思った以上に頂上までの道のりが長く疲れました。その分、頂上で食べた弁当はとてもおいしかったです。

下山途中に突然雨が降り出し、カッパを着たり脱いだりして大変でした。雨で滑ってしまうこともありましたが、登りより楽でした。室堂まで帰ってきた時は、とても達成感があり嬉しかったです。



特別に、山岳警備隊の室堂基地にも行きました。山岳警備隊の方々にももらったお菓子はとてもおいしかったです。

僕にとって、思い出に残る充実した一日になりました。



「チャレンジスポーツ やまの」初開催

スポーツ推進委員長

坂口 通

今回、我々スポーツ推進委員会は、体育祭に代わる行事として「チャレンジスポーツやまの」を開催いたしました。自由参加で誰でも気軽にスポーツに親しんでもらう機会として、参加された皆さんとスポーツを通して触れ合い、楽しい時間を共有できたことは、非常に良かったと思います。

私は、皆が納得のいくスポーツ行事にしていくには、もっと考える必要があると思いました。

この「チャレンジスポ」が、これからもスポーツ推進委員を中心に、多くの地区民の方々が楽しめる一大イベントに発展していくことを心から願っています。



9/24



「チャレンジスポーツ やまの」に参加して

高田 菜海

私は、走ることが苦手で、スポーツも好きではありませんでした。でも、月に2回行われている「わいわい健康スポーツDAY」には参加していて、そこでこのイベントの練習をさせてもらっていました。

その練習の成果を発揮する日が来ました。当日は、卓球1位を目標に頑張りました。その結果、卓球もバドミントンも1位をとる事ができました。総合1位となり、素敵な景品をいただきました。

来年も、このような機会があれば参加したいです。

里芋掘り取り体験会を開催して

山野地域づくり協議会地域活性化部長
松川 毅

山野の里芋作付面積拡大と担い手育成、美味しい里芋を未来につながる活性化を図ることを目的として「やまのいもっこ倶楽部」を発足して4年目になりました。

昨年初めて掘り取り体験会を実施しました。予想を上回る来場と高い評価を頂き、今年は10月、11月下旬の土日の4日間実施しました。あいにく悪天候が続くなかでしたが、400名弱の来場がありました。

来場された方は「昨年来て、山野の里芋の美味しさを知り、今年も楽しみにしていました」また「知人からのSNSで知り、子供達と体験出来る機会が嬉しい」と強風大雨の続く中でも喜々として掘り取りされる家族も数多くありました。

2年目の今年感じたのは、新聞折込等の告知による来場もありますが、知人からの紹介や口コミ、更に「SNSで知った」と地元以外、しかも遠方からの来場も増えたことです。

そして今年新たに「井波中学校」「山野保育園」体験会にもお応えしました。これは活動を通じて山野地区活性化への一助にしたいとの想いからです。今後も地区を問わず多くの方々の参加と協力を待っています。



10/21、22、11/28、29



保育園交流事業

イチゴ・サツマイモ植付、掘り取り体験



5/30



10/18

地域との交流を通して

山野保育園園長
今井倫江

園の保育目標の一つに『豊かな感性をもつ子ども』があり、内容として自然や社会の中で様々な体験を通して、豊かな感性を育て、創造性の芽生えを培うことと明記してあります。しかし、この数年は新型コロナウイルス感染症の影響で地域との交流が積極的に行えず、イチゴやサツマイモの収穫のみをさせていただけでした。5類感染症とされた5月からは交流の機会が増えました。収穫したイチゴで年長児がジャム作りをして、「いもっこ倶楽部」の方に直接お渡ししたり、焼き芋パーティーにお招きしてゲームや会食をしたりして楽しい時間を過ごすことができました。

園児体験農場等で育てた野菜収穫体験では「初めて里芋掘る!」「楽しい!」「またしたい」と明るい笑顔で言う子どもの姿が印象的でした。園内だけでは得られない貴重な体験が豊かな心と体を育てると感じています。これからも地域の方との交流の機会を大切に過ごしていきます。

子どもの育ちに日々協力や見守りをしてくださる地域の皆様に感謝いたします。



環境美化運動

6/5、11/29

山野地域づくり協議会総務部長 高山 博文



山野交流センター前の花壇は、花と緑の銀行山野支部、グリーンキーパー、ボランティアグループ鳳泉会の方々のご協力により、年2回花苗、チューリップ球根の植込みを行っています。

春は6月5日朝7時からトレニアやマリーゴールド、センニチコウ、日日草など約460本の花苗を、花壇やプランターに植え込みました。

また、秋は11月29日朝7時30分からチューリップの球根約700個を花壇やプランターに植え込みました。

今年も、記録的な猛暑で10月中旬まで暑い日が続きましたが、一部の花を除き11月まで楽しむことができました。皆様のご協力に感謝します。



園児らは買い物客にサトイモや手作りマグネットなどを渡し「交通安全お願いします」と元気に声をかけました。



11月8日、キッズポリスに任命されている山野保育園の年長児10人が、井波コミュニティプラザアスモで、山野地域づくり協議会の特産委員会が作った山野特産のサトイモと、いきいき健康サロンの皆さんが製作されたマスケットを配って交通安全を呼びかけました。

これは山野地域づくり協議会の防災安全部が南砺市交通安全協会山野地区支部と共催で南砺警察署の協力を得て、サトイモのように粘り強く安全確認してほしいとの願いを込め企画したものです。

園児らは買い物客にサトイモや手作りマグネットなどを渡し「交通安全お願いします」と元気に声をかけました。

交通安全マスケット配布

山野地域づくり協議会防災・安全部長 高田 実

三世代交流事業

ふれあい委員長 高田博之

12月3日(日)降水確率90%の肌寒い最悪の気象状況のなか、長寿会、町内会長、壮年会、育成会、母親クラブ、地域福祉推進員、民生児童委員、ボランティアグループ等の協力の下、三世代交流事業が4年ぶりに行われました。

薪を燃やしセイロで餅米を蒸し、臼杵で餅つきをしました。子供たちは約80名参加し、目を輝かせ積極的に餅つきに参加する子、三角巾エプロンをして餅に黄な粉や黒ゴマを付ける子、スポーツ室でス



ポーツ・ゲームに取り組む子等、大人と一緒に交流し満足した活動となりました。会食では、美味しい豚汁に舌包みを打ちながら、つきたての餅の味を堪能しました。

三世代でもちつき

山野母親クラブ 大浦順子

あいにくの雨で、寒い中での開催になりました。4年ぶりのもちつきでしたが、たくさんの子供達が参加してくれました。もちつきに、長蛇の列を作り、重たい杵を精一杯振り上げて何度もつきました。もち加工では、きな粉やゴマつけや、パック詰め、机に並べるなど、たくさんお手伝いをしてくれました。



これからも、三世代が交流する機会を大切にしていきたいと思います。前日準備を含め多くの方々にご協力いただきましたことに感謝いたします。

クリスマス会

山野児童クラブ育成会会長 新里史朗

12月3日午後から山野交流センターでクリスマス会を開催しました。各地域から70名の子供たちが集まり、謎トレクイズやDVD鑑賞、体育館でのスポーツなどで交流し、お菓子を食べながらメインのビンゴ大会ではサンタさんからプレゼントをもらい大盛り上がりでした。今回、久しぶりの開催となりましたが子供たちが笑顔で集まるイベントは何とも言いえない幸せな空間でした。

準備運営にご協力をいただきました皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



山野の魅力紹介

1

昭信機工

「37BASE」



ゆったりくつろげるラウンジ



温泉・炭酸風呂



山野を今以上に盛り上げたい！

12月13日岩屋地内に待望の温浴施設がオープンしました。この施設は、昭信機工の長谷学社長が、「地域住民の憩いの場、働ける場をつくりたい。そして山野を今以上に盛り上げたい。」との思いをもつて建設されたもので、山野地区の新たな魅力創出につながるものと期待されています。

今年2月に着工、約三千平方メートルの敷地に鉄骨平屋建て延べ約七百平方メートルの施設が11月に完成しました。37BASEの施設名は、三世代が集まり、温泉、炭酸風呂、岩盤浴、サウナ、酸素カプセル、レストラン、ラウンジの7つの特色がある基地という意味を込めたものです。

持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向け、住宅などの解体作業で出る廃材や屋敷林の剪定枝などをボイラーの燃料に再利用することで、循環型社会の実現に貢献することを目指しています。

風呂は木質チップを燃料とするチップボイラーで湯を沸かします。また、バックアップとしてガスタンクとガスボイラー2基、施設に電力を供給するための太陽光パネルを設置していることから、災害時には南砺市との災害協定に基づき建物、敷地とも避難所として開放し、約200人の住民の受け入れが可能となります。

約15名の従業員により、朝9時から午後11時まで正月の1月1日以外は年中無休で営業します。レストランでは食事に加えおつまみやお酒類も提供することなので、ラウンジなどで一日ゆったりくつろぐことができます。



編集後記

早いもので今年も余すところ1週間となりました。これまでの3年間は新型コロナウィルス感染症の影響で地域づくり協議会の大きなイベントはほとんどできない状態でしたが、今年は皆さんの協力のもとふれあい祭りなど多くのイベントが開催されました。

広報やまの第136号には皆さんの活躍される姿をできるだけ多く載せるよう努めました。また、新たに「山野の魅力紹介」と題して、山野の魅力ある施設や人物を紹介していきます。今回は第1弾として岩屋地内に新たにオープンした温浴施設「37BASE」を取り上げました。

皆さんとともに作る「広報やまの」となるよう、お近くに紹介したい施設や人物がありましたら是非とも事務局にお知らせください。

(広報委員会)

